



褐色細胞腫

(かっしょくさいぼうしゅ)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

褐色細胞腫について

褐色細胞腫は、交感神経（自律神経の一種）に働きかけるホルモンであるカテコラミン（アドレナリン、ノルアドレナリンなど）の産生能を有する腫瘍です。主に、腎臓の上に位置する副腎の髄質から発生します。まれに副腎の外（頸部・胸部・膀胱付近などの傍神経節）に発生することもあり、これらはパラングリオーマ（副腎外褐色細胞腫）と呼ばれます。

発作性の高血圧や、通常の降圧剤での治療でよくならない高血圧を詳しく検査する過程で発見されることが多いとされています。

症状について

カテコラミンが過剰に分泌され、高血圧や頭痛、動悸、発汗、不安感、便秘、腸閉そく（麻痺性イレウス）など多様な症状を呈することがあります。また、糖尿病、脂質異常症を併発することもあります。

検査について

副腎腫瘍の精査として、カテコラミンを過剰に産生しているかどうか評価するため、カテコラミンおよびその代謝物を尿中・血中で測定します。腫瘍の位置や広がり进行评估するためにCTや、MRI検査などを行います。

遺伝性について

褐色細胞腫は、発症した原因の約30～40%が遺伝によるもの（家族性腫瘍）と報告されています。現在では10種類以上の、褐色細胞腫と関係した遺伝子の変化が明らかになっています。遺伝子の変化が見つかることで、フォローアップの方針検討や血縁者の発症リスク特定に役立つことがあります。

治療について

治療には、腫瘍そのものに対する治療と、カテコラミン過剰症状に対する治療の2つがあります。

- 腫瘍そのものに対する治療の第一選択は手術での腫瘍摘出です。
- 手術で切除困難なケースや、ほかの内臓に病巣を認めたり、術後に再発をきたした際は、抗がん剤治療を行うことがあります。

